

1 クラウドコンピューティングとは

一般に、ASP・SaaS技術、グリッドコンピューティング(※)、仮想化技術(※)等を用いて構築された情報システムを、利用者が対価を支払った上でインターネットを通じてサービスとして利用するという利用形態を指す。

現在、地方公共団体の情報システムにおいては、ハードウェア、ソフトウェア及びデータを自ら保有・管理している場合が多いが、クラウドコンピューティングの利用形態を導入することにより、自ら保有・管理をすることが困難な小規模団体等においても情報化の推進が可能となる。

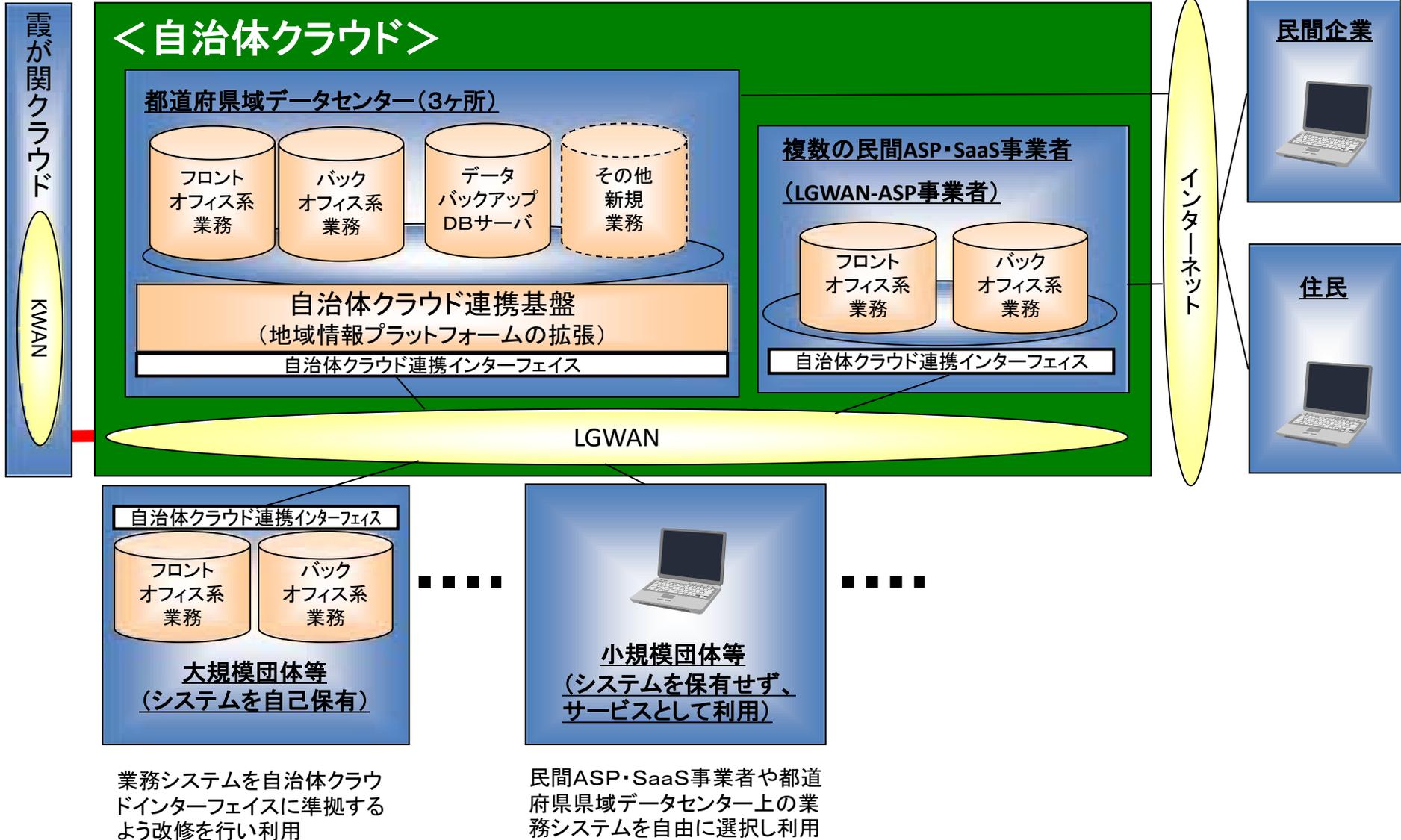
※グリッドコンピューティング・・・複数のコンピュータを接続することで情報処理量の増減に柔軟に対応する技術

※仮想化技術・・・1台のコンピュータ上に論理的に複数の業務アプリケーションを稼働させる技術

2 自治体クラウドの仕組み

- ① 総合行政ネットワーク(LGWAN)上にデータセンターをバランスよく配置、構築(3か所)。
- ② 各データセンターにおいて民間ASP・SaaS事業者のサービスも組み合わせることで共同利用用の各種業務システムを構築し、小規模団体等をはじめとした各市町村等に対し、当該業務システムをサービスとして提供する。(大規模団体等においては、自治体クラウドの標準インターフェースに準拠した上で、業務システムを自ら保有することも想定。)
- ③ 各市町村等は、総合行政ネットワーク(LGWAN)に接続するだけで様々な業務システムの利用を自由に選択し、低廉に利用。
- ④ 各データセンターに高性能なハードウェアを装備するのではなく、グリッドコンピューティングを活用することによって、各データセンターの機能が相互に連携した分散・並列型の効率的なネットワークを構築する。

自治体クラウドの仕組み(イメージ図)



自治体クラウド構築に向けたロードマップ

